

2011年 暮らしと協同の研究所 第19回総会記念シンポジウムのご案内

日時：6月25日（土） 13:00 特別報告・基調講演・シンポジウム（12:15 受付開始）
18:40 第19回総会
19:30 懇親会
6月26日（日） 9:30 分科会（9:00 受付開始）

6/13(月)
申込〆切

会場：コープイン京都／松井別館「花かんざし」

統一テーマ

《協同組合による新たな”つながり”づくり

～国際協同組合年を前にして、いま、われわれには何が求められているのか～》

開催趣旨

暮らしと協同の研究所「総会記念シンポジウム」では、ここ数年、人々の「つながり」づくりを問題意識としてきました。2008年のシンポジウムでは「都市における新しいつながりづくり」を、2009年には「多様な地域のあり方に対応して協同の形を創造するマネジメント」を、そして昨年は「よりよく生きる（ウェル・ビーイング）ための“きずな”づくり」をテーマに掲げて議論してきたのです。

いうまでもなく、その背景には、「無縁」「孤立」「孤独」「格差」等々のことばが「社会」に冠せられるという近年の日本の状況があります。そこで協同組合に期待が寄せられることも当然でしょう。しかしそれでは具体的に、多くの消費者を組合員に抱え、購買事業を中心として医療・福祉・環境等々の分野にも手を広げている生活協同組合に対して、期待されるものは何なののでしょうか。そしてその期待に、生協は応えることができるのでしょうか。生協による「つながり」づくりとは、どのようなものなのでしょうか。

国際連合は、来年2012年を「国際協同組合年」と定めました。その趣旨は、格差や貧困や戦争や天災その他によって疲弊した社会を立て直し、発展させるために、協同組合を活用することを世界はもっと考えなくてはならない、というものです。そこで、先進国の協同組合にも第三世界の経済的復興・発展に目を向けることがもとめられたわけですが、このたび東日本を襲った大震災によって、この問題は日本の協同組合にとっても自分自身が直面すべき問題となりました。いまやわれわれは、豊かさのなかでの「つながり」づくりではなく、格差と貧しさのなかでの「つながり」づくりや、全てを失った状態からの「つながり」づくりと復興をも考えなくてはならないのです。

世界的な視野をもちつつ、地域からの発信に応えることが、いま生協にはもとめられています。問題は、理念と現実の両面から考えなくてはなりません。研究者が問いかけ、実践家がそれに応える。逆に実践家が問題を提起し、研究者がそれを考える。今回のシンポジウムと分科会は、そのようなものとなるように企画・構成を考えました。多くのみなさんのご参加を期待しています。

実行委員長 杉本貴志

基調講演

『いま、”非営利・協同”に何ができるのか、何が求められているのか
～”理念・原則”と”現実”から考える～』

講師：杉本 貴志氏（関西大学教授 当研究所研究委員）

特別報告 「東日本大震災の被災地生協より」 齋藤 昭子氏（みやぎ生活協同組合理事長）

13:00- 開会挨拶

13:10- **特別報告**

「特別報告～東日本大震災の被災地生協より～」【講師】齋藤 昭子氏（みやぎ生活協同組合理事長）

13:40- **第1部 基調講演**

「いま、「非営利・協同」に何ができるのか、何が求められているのか～“理念・原則”と“現実”から考える」

【講師】 杉本 貴志氏（関西大学教授 当研究所研究委員）

14:55- **第2部 シンポジウム**

「いま、生協に何ができるのか、何が求められているのか～“理念・原則”と“現実”から考える～」

I 「生協への期待と注文 ～ 新たな“つながり”づくりを展望して～」

問題提起A「生協で子育て層が減少し続けているのはなぜか～組合員の“つながり”づくりの観点から～」

【講師】 近本 聡子氏（生協総合研究所研究員 都留文科大学講師）

【趣旨】 生協の組合員の平均年齢が全国平均で53歳を超えたということが2009年全国組合員調査であきらかになった。1980年代は子育て層が人数でも利用額でも生協の中核を担っていたが、今や35歳未満がどの年代と比較しても低い。日本の家族の変容が大きいなか子育て層にとって魅力ある生協とは何かを考えてみたい。

問題提起B「生協は食と農にどう向き合うのか～食をめぐる“つながり”づくりの観点から～」

【講師】 増田 佳昭氏（滋賀県立大学教授 当研究所研究委員）

【趣旨】 「安心・安全」は、もはや生協の専売特許ではない。これまでの生協産直を振り返りながら、いかに食と農に向き合うべきか、それぞれの生協があらためて考えるべきときではないか。組合員の食と農へのニーズを基礎に、組合員の参加や生産者とのつながりなど、食をめぐる多面的なつながりづくりを考えてみたい。

問題提起C「生協にとって職員とは何なのか～働く人々の“つながり”づくりの観点から～」

【講師】 岡安 喜三郎氏（協同総合研究所副理事長）

【趣旨】 生協の主人公は組合員との通説があるが、本来協同組合はそこに関わる全ての人（利用者、納入者、労働者など）が主体的に参加する仕組みがあることに存在意味がある。決して「主人公一脇役（僕）」の関係ではない。その意味で職員もまた生協の重要な役割を担っている。生協を構成する組合員と職員が協働のパートナーとなるために、理事会に何が求められているのか、何が障害になっているのかなど、事業所を軸にした三つの協同（働く者どうしの協同、利用者との協同、地域との協同）の視点から考えてみたい。

問題提起D「協同のまちづくりと生協～地域の“つながり”づくりの観点から～」

【講師】 橋本 吉広氏（地域と協同の研究センター理事）

【趣旨】 組合員の食卓(台所)というプライベートな空間をつなぐことで、生産者やメーカーとのきずなを強めてきた消費生協。いま組合員と地域をつなぎ、地域と組合員をつなぐ生協としてどんな生協像が描けるのか、〈地域生活・協同組合〉といった視点から問うてみたい。

II 「4つの期待と注文にどう応えるか ～ 生協経営の立場から～」

【コメント1】 寺本 康美氏（生活協同組合コープあいち理事長）

【コメント2】 二場 邦彦氏（京都生活協同組合理事長）

III **まとめ・閉会挨拶**

18:40- **第19回総会** オブザーバー参加歓迎！ 19:15 終了後、懇親会会場へ移動。

19:30- **懇親会 会場：松井別館「花かんざし」** 多くの皆さまのご参加お待ちしております！ 21:00 お開き

第1分科会 会場：コープイン京都

「地縁と血縁を超えた“つながり”づくり」

【コーディネーター】 上掛 利博氏(京都府立大学教授)、中川 順子氏(立命館大学教授)

【趣旨】 高齢単身者が増加し「無縁社会」や「孤立化」が社会問題になるような家族と地域の変化のなかで、みんなが安心して暮らしていける「まちをつくる」ためには、これまでの地縁や血縁だけではない新たな「つながり」づくりについて、若い世代の視点や組合員以外の人にも視野に入れて考える必要がある。住んでいる地域の町内会と協同組合が連携して地域課題を解決していく可能性や意味について考える。

【話題提供】 小池田 忠氏(名古屋市緑区「森の里荘」自治会会長)
増田 隆子氏(京都生活協同組合組合員)

第2分科会 会場：コープイン京都

「生協と生産者の新たな“つながり”～「産直」から「提携」へ～」

【コーディネーター】 辻村 英之氏(京都大学大学院准教授)

【趣旨】 生協はこれまで、「産直」3原則に基づいて生産者とのつながりづくりを進めてきた。しかし農産物の価格下落で、農業経営を持続させるのが困難になりつつある現在、農業・生産者を生協・消費者が買い支えるという産消「提携」が求められている。その「提携」の事例において、生産者は生協に対してどのような役割を期待しているのか。その声を聞き、生協による買い支えのあり方について考える。

【話題提供】 吉岡 功光氏(京都府京丹後市飼料用米生産組合代表)
濱田 和夫氏((株)滋賀有機ネットワーク代表取締役)

【コメンテーター】 増田 佳昭氏(滋賀県立大学教授)

第3分科会 会場：コープイン京都

「生協労働を考える～働くものつながりづくり～」

【コーディネーター】 的場信樹氏(佛教大学教授)

【趣旨】 生協は組合員と職員で構成されている。その職員は組合員の要望を仕事を通じて具現化を図り、財産の保全と運用などを担い、生協事業の重要な役割を担っている。その職員はいくつもの職種にわかれ、同じ職種においても正規、パート、委託、派遣などに分かれ、細分化された時間のなかで働いている。職員はどのような価値観やシステムで組合員に向きあうのか考える。

【話題提供】 佐竹 泉氏(おおさかパルコープ忍ヶ丘店農産リーダー)
松田 修一氏(コープみやざき宮崎北支所地域責任者)

特別分科会1 会場：松井別館「花かんざし」

「大震災を経験して、くらしと協同のこれからを想像する」

【コーディネーター】 浜岡政好氏(佛教大学教授)、井上英之氏(大阪音楽大学教授)

【趣旨】 私たちの「想定」をこえる大災害に直面している。まずは今、「被災地域」でのくらしと協同に何が起きているのか、状況をしっかりと知ることが大切である。そのうえで、くらしと協同の視点から、何を引き継ぎ、何を転換させるべきか、について現地からの報告等を踏まえての「これからを想像」する場としたい。

【話題提供】 加藤 善正氏(岩手県生活協同組合連合会会長)
熊谷 純一氏(福島県生活協同組合連合会会長)
水島 重光氏(日本生協連中央地連大規模災害対策協議会世話人)

特別分科会2 会場：松井別館「花かんざし」

「国際協同組合年をどう迎えるか～あたらしい協同組合論の構築をめざして～」

【コーディネーター】 杉本 貴志氏(関西大学教授)

【趣旨】 2012年の国際協同組合年に、くらしと協同の研究所は社会に対して、あるいは生協に対して、何を発信すべきなのか。「公益」を追求する生協という視点を中心に、あたらしい生協論・協同組合論を大胆に提起する。

【話題提供】 堀越 芳昭氏(山梨学院大学大学院教授)
北島 健一氏(立教大学教授)

申込方法・参加費・宿泊等のご案内

【申込方法と参加費】 参加費はなるべく事前にお振込みをお願いします。

区分		両日参加	1日参加	申込み方法
会員	団体	3000 円	2000 円	「参加申込用紙」⇒FAX か郵送
	個人			「総会出欠確認ハガキ」⇒郵送 ※ハガキは<シンポ申込み>と<委任状>
非会員 ※当日ご入会の方は会員価格で可		8000 円	5000 円	「参加申込用紙」⇒FAX か郵送 ♪ご入会の方は裏面の「加入申込書」にもご記入下さい
学生・院生（社会人除く）		2000 円	1000 円	「参加申込用紙」⇒FAX か郵送

※シンポジウムの機会にご入会の場合、期中入会のため 11 年度の個人会費は 5000 円(11 年 6 月～12 年 3 月分)となります。

【締切日】6月13日(月)必着【定員】150名 会場の都合上、定員になり次第受付を締め切らせていただきます。

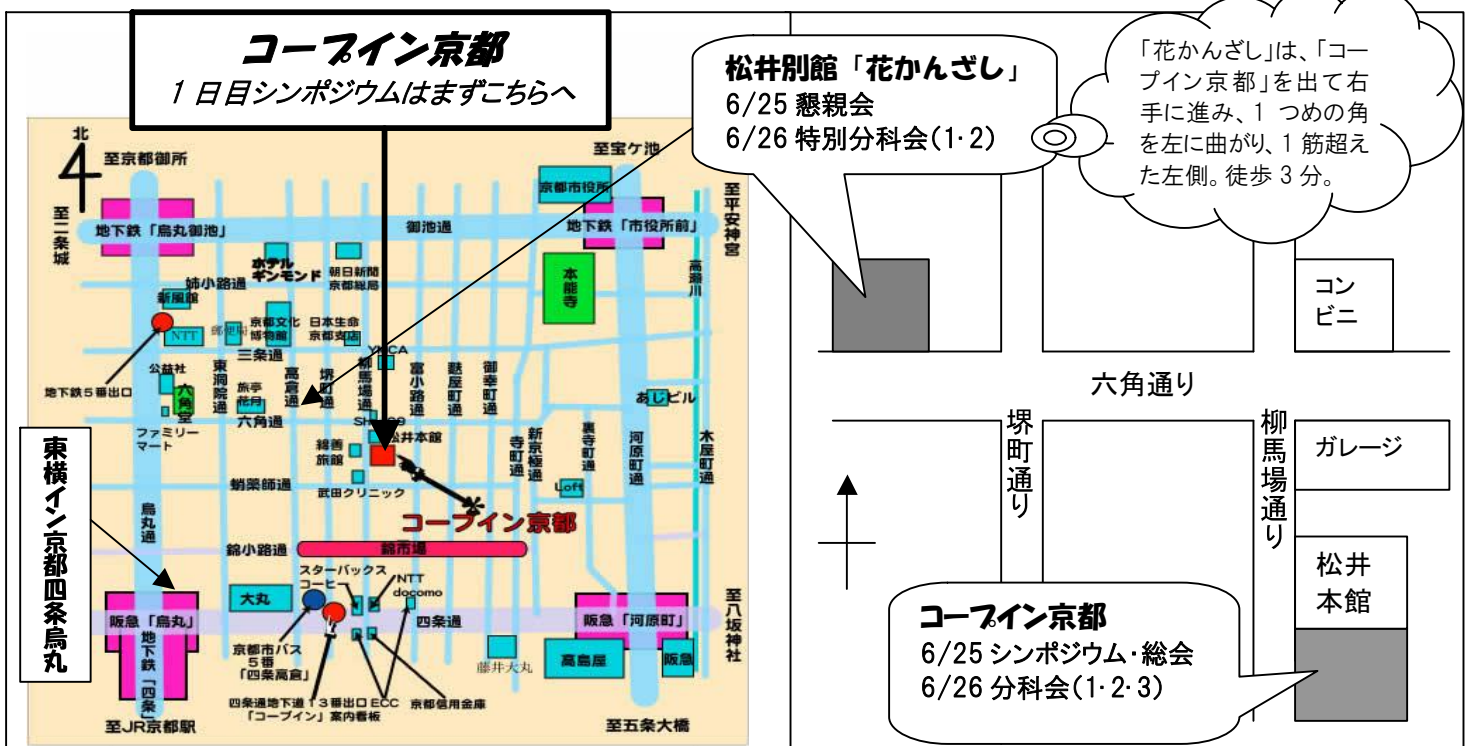
【懇親会】松井別館「花かんざし」にて、参加費は 5000 円

【宿泊幹旋】●コープイン京都 7600 円 ●東横イン京都四条烏丸 7480 円 (注)①いずれも朝食付。②部屋数に限りがありますので先着順で承ります。③急なキャンセルの場合、規定に沿ってキャンセル料がかかりますのでご了承ください。

④「東横イン京都四条烏丸」は四条烏丸すぐ東北側ですので、午前中に宿泊荷物を預けることも可能です。

会場のご案内

- ① 1 日目シンポジウムからのご参加は「コープイン京都」へ。2 日目分科会は、直接、各会場へお越しください。
- ② 松井別館「花かんざし」や「東横イン京都四条烏丸」の地図は 1 日目にお渡しします。
- ③ 地図がお分かりにくい場合や事前に必要な場合はご連絡ください。お送りします。



- コープイン京都** TEL 075-256-6600 京都市中京区柳馬場蛸薬師上ル井筒屋町 411
市営地下鉄「四条駅」or 阪急「烏丸駅」から徒歩約 13 分。四条通り地下道を東へ、13 番出口から北へ。
- 松井別館「花かんざし」** TEL 075-221-6688 京都市中京区六角通高倉東入堀之上町 126
市営地下鉄「四条駅」or 阪急「烏丸駅」から徒歩約 10 分。四条通り地下道を東へ、16 番出口から北へ。
- 東横イン京都四条烏丸** TEL 075-212-1045 京都市下京区四条通烏丸東入長刀鉾町 28
市営地下鉄「四条駅」or 阪急「烏丸駅」の真上。20 番出口へ。(詳しくはホテルの HP ご参照お願いします)

くらしと協同の研究所 〒604-0851 京都市中京区夷川通烏丸東入る西九軒町 291

TEL: 075-256-3335 FAX: 075-211-5037

E-mail: kki@ma1.seikyone.jp (ma1の“1”は数字) URL: <http://ha1.seikyone.jp/home/kki/>